

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2011年 4月 25日

派遣者氏名（専門分野）	山崎恭宏 （ フランス文学 ）
-------------	-----------------

派遣期間	H23年 1月 30日 ～ H23年 4月 4日
------	--------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
フランス	パリ	パリ第7大学、フランス国立図書館（リシュリユー館、ミッテラン館）、オペラ座図書館、サント・ジュヌヴィエーヴ図書館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

フランス国立図書館（リシュリユー館とミッテラン館）そしてオペラ座図書館で共通して利用できる登録証の発行は、昨年まで使用していた登録証の再発行としてスムーズにできた。初めて登録する博士課程以上の学生に関しては、提出書類に指導教官のサインがあれば、簡単に登録できるのではないかと。申請をするカウンターに書類をもって行き、写真撮影をした後に、料金を支払う窓口に行く（キャッシュカード支払いのみ）。そこですぐにカードを受け取ることができる。しかし修士課程の学生については、明確な研究プランとここでしか閲覧できないという理由がなければ、図書館地下の部屋に入館できる登録証を入手することは難しい。入手したい文献を上記の国立図書館共通の検索で調べると、その文献がどこに所蔵している、どのようなかたちで閲覧できるか（実物かマイクロフィルム）が検索できる。

ミッテラン館では地下を利用する場合には、まず自分の席を予約しなければならない。できなければ入館不可である。その場合でも何10分か待てば予約できる。しかし、短期間での滞在ならば、そうした煩わしさは避けたいものだ。1週間分予約できるので、できるだけ前もって席の確保をしたほうがいい。

文献をパソコンで要求すると、だいたい30分ほどで自分の席のあるカウンターで本を受け取ることができる。コピーを希望する場合、コピーの部屋があるのでコピーカードを前もって購入し担当の人に頼む。片面の1ページに40円ぐらいかかる。カメラで撮影を希望する際には、まずカウンターで相談し、許可が出ると必要書類に記入し、カメラ撮影できる部屋に行く。全ページ撮影することはできない。またマイクロフィルムから印刷を希望するときには、担当の人に頼む。これも40円ぐらいしたかと思うが、大きさによってはこの値段で両面コピーができた。地上階の部屋だけは日曜日でも開館（月曜日休館）。

リシュリユー館の音楽部門と芸術・スペクタクル部門では検索した後、手書きで文献を請求する。コピーとデジタルカメラの撮影についてはミッテラン館と同様である。ただこちらのほうが図書館の規模が小さいので親切に対応してくれる。デジタルカメラの撮影にも鷹揚さがみられた。オペラ座の図書館も同じく、親切に相談をのってくれ、基本的な文献なども教えてくれた。

サント・ジュヌヴィエーヴ図書館に入館する場合、できれば午前中に入館証の申請をしたい。（この地区には大学や高校があるので1時すぎには満室になり、入館するために外で並ばなければならない。）入館証の申請にはパスポートとパリの居住証明書が必要である。申請カウンターで手続きそして写真撮影をし、その場でカードを受け取ることができる（無料）。パソコンで検索し、そこ

から文献を請求すると約 20 分後に指定のカウンターで受け取ることができる。自分自身でコピーをすることができ、コピー代も上記の図書館と比べ格安なので、研究論文など大量にコピーするときにはここを利用するのは便利である。夜 10 まで開館している。

パリ第 7 大学には 19 世紀専門の図書館があり、19 世紀の文献はあまりないが、作家のテキスト、研究書などを多く所蔵している。ただしパリ大学の学生以外は入館できないのではないかと思う。

フランスでは図書館の規則は人によって言うことが異なるので、何か問題があった場合には他の学芸員に相談したり、また場所を変えたりしてみる（たとえば、ミッテラン館では V の部屋から O の部屋に予約するとか）によって解決されることがある。柔軟に対応することが必要であろう。